

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成24年11月2日)

【二五】子路・曾皙・冉有・公西華 侍坐す。子曰く、吾が一日爾より長ぜざるを以て、吾を以てすること母かれ。居れば則ち曰う、吾を知らざるなりと。如し爾を知ることを或らば、則ち何を以てせんと。子路 率爾として対えて曰く、千乗の国、大国の間に摂まり、之に加うるに師旅を以てし、之に因るに飢饉を以てせんに、由や之を為めば、三年に及ぶ比おい、勇有りて且つ方を知らしむべしと。夫子 之を晒う。求 爾は如何と。対えて曰く、方六七十、如しくは五六十、求や之を為めば、三年に及ぶ比おい、民を足らしむべし。其の礼樂の如きは、以て君子を俟たんと。赤、爾は如何と。対えて曰く、之を能くすと曰うには非ず、願わくは焉を学ばん。宋廟の事、如しくは会同に、端章甫して、願わくは少相と為らんと。点、爾は如何と。瑟を鼓すること希なり。鏗爾として瑟を舍きて作ち、対えて曰く、三子者の撰に異なりと。子曰く、何ぞ傷まんや。亦 各其の志を言うなりと。曰く、莫春には、春服既に成り、冠者五六人、童子六七人、沂に浴し、舞雩に風し、詠じて帰らんと。夫子 喟然として歎じて曰く、吾は点に与せんと。三子者出づ。曾皙曰く、夫の三子者の言、如何と。子曰く、亦 各其の志を言えるのみと。曰く、夫子何ぞ由を晒うやと。曰く、国を為むるには礼を以てす。其の言譲らず。是の故に之を晒うと。唯 求は則ち邦に非ずやと。安んぞ方六七十、如しくは五六十にして、邦に非ざる者を見んと。唯赤は則ち邦に非ずやと。宋廟会同、諸侯に非ずして何ぞ。赤や之が小為らば、孰か能く之が大為らんと。

孔子が亡くなる2～3年前の頃に、弟子達に「お前達は良い人生とはどういうものか、考えているか」と質問をしました。学者によって色々と説は分かれます。

孔子が71才頃の話としますと、子路が62歳、曾皙が45歳、冉有が42歳、公西華は29歳というようになります。孔子はその若い4人に聞きました。「お前達よりは、私はちょっと歳が上だからみな言いたい事を言ってごらん」聞いてあげるといような調子だったのでしょう。

子路は無遠慮に言いました。現代に置き換えていいますと、仮に韓国を私が治めればとか、私が北朝鮮の親玉になったらという風な感じで考えればよいと思います。「大国の間に挟まり～」は、北朝鮮の立場で考えると現状ではアメリカがあり、北朝鮮はアメリカに対して神経を尖らせているけれども、他にも中国、インドを睨み、それから日本も睨んでいる。子路は3年もあれば立派な国に仕立てて見せる、それに飢饉が襲ってきても大丈夫だと胸を張る。それを聞いて孔子が何も批評しないで、フッと笑った。ほほ笑んだとありますが、鼻先で笑うのではなく、また子路が馬鹿げたことを言っているよという感じの笑

いであると受け止めればよいと思います。

冉有は、衣食足りている事までは出来ているけれども、文化的な面は駄目です。

公西華にも聞いたら、謙遜しながら「私は学んで実行したいと思います」というような事を言う。二人は謙讓の美学を発揮していると考えて良いでしょう。

子路だけは胸を張ってぶっきらぼうに言いたい事を話していますが、二人だけは謙遜しているので、その対比が面白いと感じます。

最後に曾皙が、「他の三人について、どうしてあの様な評価をしたのですか、私は納得できません」という様なことを言ったら、子路について笑ったのはさっき言ったような意味だし、冉有については小さい国だと言っても国家は国家だ。公西華は小相だから、大きな儀式をする時の単なる補佐役だったら困る。本当に彼の他に責任者になって全部取り仕切るような人間が世の中にいるかい、いる訳ないだろう。公西華もちょっと謙遜して言っています。

これはそのまま今の日本にあてはめて見ると、みんな子路の様な調子、もしくは酷い調子でやっているのです、野田首相の喋り方は誰に似ているのかなとか、民主党、他の政党、これと照らし合わせてみると、かなりのものが見えてくると感じます。

この間お会いしたペマ・ギャルポさんの言葉で、中国政府高官が、日本政府高官に「石原さんの東京都が島を買ったら、うちは叩くよ、ただし国有化すればうちは叩かないよ」という風に耳打ちをしたそうです。野田さんは慌ててその策に引っかかって国有化をした途端にやられたという裏話があるそうです。